

7月号（AB 合併号）では、今年度から医学部2学年次で新しく開講された「ジャーナルクラブ」を特集します。前半は、「ジャーナルクラブ」開講までの経緯、後半は授業内容についてご紹介いたします。

## 「医学英語をきちんと勉強しておけばよかった」という卒業生の声

この「ジャーナルクラブ」を開講する1つのきっかけとなったのは、皆さんの先輩である本学の卒業生たちの声でした。「国家試験に無事合格し研修医として病院勤務が始まりました。周りの先輩や同輩は他大学を卒業してきた人ばかりです。学生時代にもっと勉強しておけば良かったと思います。その中でも特に医学英語をしっかりと勉強してこなかったことがとても悔やまれます。医学論文を読む勉強会があると、まわりの仲間たちは英文をスイスイと読んでいくのに対し、自分だけが読めない。後輩たちにはこんな情けない思いをさせないでほしい。」と言うのです。

## 基礎科学・基礎医学・臨床医学部門の教員によるワークショップの授業

こうした先輩たちの切なる思いに応じて生まれたのが今回の「ジャーナルクラブ」です。英語を教えるプロである基礎科学部門の教員と、医学の専門科目を教えるプロである基礎医学・臨床医学部門の教員ががっちり手を組んで授業の構想を練りました。できるだけ新しい論文を、学生が興味を持てる内容を、2年生の医学知識でも十分に理解できるような分野を読ませたい。そして少しでも英語が好きになり、将来医学論文を読む時に苦痛を感じなくても済むように、医学英語に慣れ親しませるという方針で教材を選び、授業の進め方を考えました。

## グループ学習による論文講読のチュートリアル授業

1・2ヶ月に1本の割合で課題論文が与えられ、まず自分の力で読み進めていきます。

学生が6人1組の班で勉強会を開き、わからないところを教え合い、啓発し合いながら学習をさらに進めていきます。発表の週では論文の概要を教員の前でプレゼンテーションをし、内容に関する質疑応答を行い、最後に教員による解説が行われます。今月は近視に関する論文とBSE検査に関する論文です。



グループ学習の様子（セミナー室にて）

# コンピュータを使った個別学習の授業

今年からコンピュータ室に導入された「メディカル英語」のソフトを用い、ヘッドフォンをかけて診療英会話の練習やリスニングをトレーニングします。また医療記事を用いた速読トレーニングや医学語彙を覚え発音練習をします。今月は今まで覚えてきた臓器名などの身体に関する基本語彙を、各学生が正確に発音し意味が言えるようになったかどうかを教員がチェックしています。



## 学生さんたちの声

### ジャーナルクラブで学んだこと

104030 川口 知己

ジャーナルクラブが始まってすでに2ヶ月以上が経ちました。ジャーナルクラブは2週間を単位として、コンピュータ室のパソコンで医学英語を学ぶグループとセミナー室で英語の論文を読むグループに分かれて学習します。パソコン学習の方は、医学における基本的な単語の学習に始まり、リーディング、リスニングがあります。その全てが臨床に繋がるような問題で、非常に面白く、またこれからも役立つと感じています。特に医学英語の単語は、通常英語の勉強をしてもなかなか出てくるものでもなく、このような場所でなければなかなか学ぶことができないものです。また、英語の論文講読の方では、論文ならではの英語の使い方を学ぶことができます。普通の教科書とは違い、構文を学習するのではなく、よく目にする単語の、医学論文における使用法を学べます。また、さらに論文を読むことにも慣れ、将来確実に必要である論文を読む力を養うことができると思います。ジャーナルクラブを通して、通常の英語とは少し違う、医学英語に慣れていくことができると思います。

### 医学英語に実践的に触れられる楽しさ

104060 中貝 郁江

今回、私たちの学年からジャーナルクラブが導入されました。ジャーナルクラブの授業は大まかに、「実際に長めの医学論文を英語で読むグループ学習のパート」と、「コンピュータを用いて医学に関するリスニングやリーディング、英単語を学習するパート」に分かれています。ジャーナルクラブの良い点の1つ目は、ただ漠然と英語を勉強するのではなく、将来役に立ちそうな医学英語を学べるという所です。そのため、意欲的に勉強する事ができ、身につく部分も多いように思います。2つ目は、自分たちの意志で勉強ができるという所です。グループ学習ではわからない部分はみんなで助け合いながら進めていくことができ、コンピュータ学習では自分のペースで、苦手な部分を重点的に勉強できたりと比較的自由に勉強することが可能です。やらされているという感じがないため、楽しく学習ができます。その他にも、新しい医学論文を使っているため、英語だけでなく医学の知識も自然と身につけていきます。これからは更に国際化が進み、最新の知識を手に入れ、医療に役立てるためにも英語は必要不可欠なものの1つです。医学部の2年生という早い段階から、このような英語に実践的に触れられるということは、この先私たちにとって非常に有益で助けになると思います。まだジャーナルクラブは始まったばかりで、正直な所、先生方も私たちも手探りの段階ではありますが、この先更にカリキュラムの整備がすすむことを期待しています。残りのジャーナルクラブも自分たちのためになると思って、しっかり取り組みたいと思います。

## 医師として自己学習能力の育成を目指して

ジャーナルクラブの授業はまだ始まったばかりです。これからもっと良いプログラムにするために、受講生の意見にも耳を傾けて改良を続けていきたいと思っています。そして、医学英語の語彙力・読解力・コミュニケーション能力の基本を身につけ、将来は医師として自立して英語の勉強を続けていくことができる自己学習能力を体得してほしいと願っています。

医学教育センター教員 基礎科学英語担当 山森孝彦